自由南アフリカの声

Voice of Free South Africa

2007 年10月

No. 4 5

発行　／　アジア・アフリカと共に歩む会

Published by Together with Africa and Asia Association (TAAA)

2007 年 10 月までの報告

- ■　5月　アフリカン・フェスタ出展
- ■　6 月　JICA委託事業「学校菜園プロジェクト」開始
- ■　7 月　TAAA活動報告会
  南アにて学校菜園事業校長研修開催
- ■　8 月　河合塾と本の梱包作業
- ■　移動図書館プロジェクト訪問
- ■　9 月　JICAプロジェクトの学校訪問
- ■ 10 月　英語の本を 18052 冊　算数セット 80 個を南アへ送る

内容

JICA 学校菜園と移動図書館プロジェクトの報告（平林薫）・・・２
JICA 委託事業概略 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５
ダーバン訪問記（牧野久美子）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６
ELET からのメッセージ（マーヴィン・オグル）　・・・・・・・・・・・７
プロジェクト実施校の生徒たちへの手紙（久我祐子）・・・・・・・・・８
農業技術指導者からの手紙（ンコシ・ソケラ）・・・・・・・・・・・・８
河合塾の貢献活動（久保智子）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
ＴＡＡＡと私　第６回（野田千香子）・・・・・・・・・・・・・・・・１０
主な活動・ルイボスティ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１
寄付・会費・本などを下さった方々・・・・・・・・・・・・・・・・・１２

ウムジニャティ小学校の移動図書館車を訪問（撮影：牧野久美子）

JICA 学校菜園プロジェクトと移動図書館車プロジェクトの報告

平林　薫

TAAA 南ア事務所代表（ダーバン在住）

ボヴンガナ小の菜園チーム

学校菜園スタート

JICA 草の根技術協力プログラムによる学校菜園プロジェクトは、７月２５日に校長研修が行われ、本格的な開始となった。研修日を間違えた１校を除き、19 校の校長または代理の教師たちが参加し、熱気のある研修となった。翌週からの学校訪問では、まず ELET のンコシ農業指導員が校内の環境や敷地をチェックした。参加 20 校の選考には州教育省ンドウェドウェ地区のンチュベ担当官が尽力くださり、フェンスが張られていることなどの条件から学校のやる気まで、かなりの部分が考慮されていた。しかし、この開始にあたっての訪問で、１校がどうしても敷地の広さが不十分ということからプロジェクト参加が難しくなってしまい、新たにボヴンガナ小が選ばれた。

本来はここで各校の担当教師への研修を行う予定であったが、時期的にできるだけ早く種や苗を植えたかったことと、6 月の教員ストの影響で研修の時間をとることが難しかったことから、指導員が各校の敷地において直接指導をしながら活動を開始することになった。20 校中 10 校は、自助努力で小さい菜園を開始しているか、またはすでに敷地を耕して準備を整えていた。あとの 10 校は、近くの耕作機を持っている人、または開始準備ができたという連絡を受けた学校から順に指導員が訪問して畑作りの作業が始まった。このスタート時点ですでに進捗状況に差が出てきており、現時点（9 月末）で、まだ土地を耕す作業ができていない学校が 2 校ある。学校側の状況を考慮しながらサポートしていきたいと思っている。

←エマクルセニ小学校でも菜園が始まった

アフリカ固有の木を植える

9 月 1 日から 7 日は“植樹週間”であったことから、土地固有の木が各校に配布された。10 月には果樹の配布が行われる。南アフリカでも外国種の木々が繁殖し、土地固有の木が減少してきている。また、地域の学校の多くは校内に木や花壇がなく殺伐としているが、財政的になかなか環境を整えることが難しい。土地固有の木の植樹は、各校で大変喜ばれた。

男子も女子も働く

菜園作りを行うメンバーは、各校がそれぞれ決定した。4-6 年生から志願者を募った学校、メンバー全員が高学年男子生徒の学校、4 年生 1 クラス全員が参加した学校など様々である。桑や鋤で土をならすのは力仕事なので、高学年男子生徒たちは力強く、てきぱきと作業を進めていたが、4 年生にはちょっと重労働だったようだ。志願者グループはさすがにやる気十分で、また家でも農作業を手伝っている生徒もいるらしく、上手に作業を行っていた。1 クラス全員の作業では、男子生徒と女子生徒が農具を取り合ったり、作業の順番で小競り合いをしたり、見ていて面白かった。ま

た、一生懸命作業に取り組む子と、調子よく避ける子もいる。いずれにしても、課外活動がほとんど行われていないこれらの学校では、生徒たちにとって菜園活動が楽しみの一つになったように見える。今回蒔いた種と植えた苗は、ニンジン、ジャガイモ、グリーン豆、キャベツ、ほうれん草、トマト、赤カブ、玉ねぎである。今から収穫が楽しみだ。

“菜園作りが楽しい“

8 月 8 日にエマクルセニ小を初めて訪問したとき、閑散とした校内と、草ぼうぼうの敷地を見て“この学校は大丈夫かな”と思った。農業指導員が校長と担当教師に活動の手順を説明し、私も TAAA が図書活動の支援を行なっている話などをした。“がんばりましょう”と言って学校を後にしたが、何となく気がかりで、翌週も他の学校に行く前にもう一度訪問した。すると、すでに敷地は耕され、すっかり準備が整っており、早速農業指導員の指導の下、作業が行われた。その後、他の学校を訪問した帰りにちょっと寄ってみると、生徒たちが一生懸命水遣りをしているところだった。“菜園好き？”と尋ねると“大好き”、“大事に世話してね”というと一同“はーい！”菜園の活動が楽しくて仕方ないといった印象だった。

エマクルセニ小のキャベツの生長は早い

9 月 18 日に再度訪問すると、キャベツが青々と葉を広げており、すべての野菜が他の学校よりも生長していた。土壌などの環境に多少の差はあるとしても、この学校もやはり川に水を汲みに行かなければならないという条件は同じだ。教師は、“生徒たちが菜園に来たくてしょうがないんです。かち合わないように、各学年が曜日と時間を決めて菜園に来るようにしています”と話していた。もちろん、活動は競争ではないが、このように熱心で活発に活動を行っている学校には賞賛を送りたい。

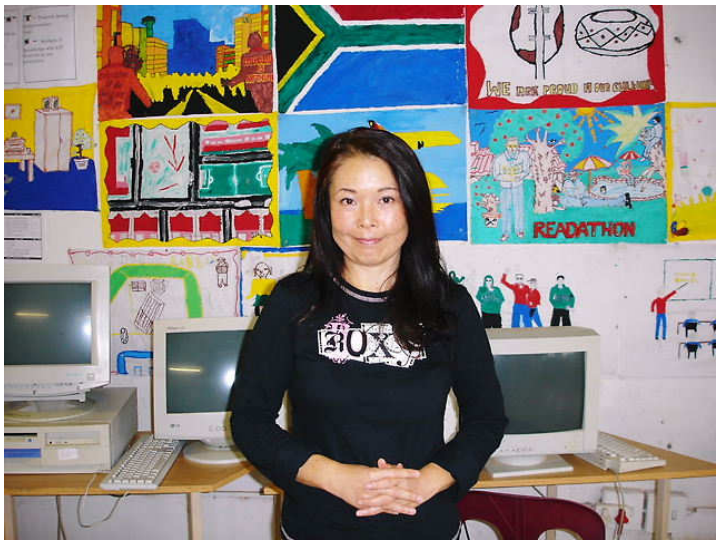
今のところ活動は順調に進んでいるが、恒久的な問題は水の供給である。特に冬から春（5 月から 9 月）は極端に雨が少なくカラカラに乾く。実際、苗を植えた学校でも十分な水遣りができず、生長が遅れているケースがみられる。参加校の半数は川に水を汲みにいかなければならず、どうしても菜園への水遣りの量と回数が少なくなってしまうのだ。また、川に水を汲みに行くのは伝統的習慣として女性の役割のため、現在でも主に女子生徒の仕事となっている。学校内、もしくは近くに公共の水道がある場合は、男子生徒もバケツを持って水を汲みに行っている。このようなことからも、地域全土への井戸または水道の供給が早期に望まれる。

マンドシ小学校では図書室を開設した

“図書室が欲しい”

TAAA が図書活動の支援を行っている話をすると、どの学校からも“本が全くないので、寄附が欲しい”と言われる。校長や教師たちは図書室予定の教室（がらんとしていたり、倉庫のようになっていたり）を見せてくれる。マンザンショペ小のように 7 学年に 4 つの教室しかない学校を除いては、とりあえずスペースは確保されているので、本棚を設置すれば図書室の形は出来上がる。地域の学校の多くは崩れそうな教室、ペンキがはがれた壁、窓ガラスは割れ、敷地内は草ぼうぼう、学校全体が閑散としている。そして、どの学校も全くと言っていいほど教材がないため、必然的に教育の内容、質が劣ってしまっている。このような環境の中で、生徒たちに勉強する意欲を持たせる

のは大変なことだろう。はっきり言ってしまえば、この環境の中で学習指導が行われていること自体が驚きである。今後、これらの学校の学校図書室の開設も支援していきたいと思う。菜園活動と共に、読書活動によって、生徒たちが野菜のようにぐんぐん成長していくことを願っている。



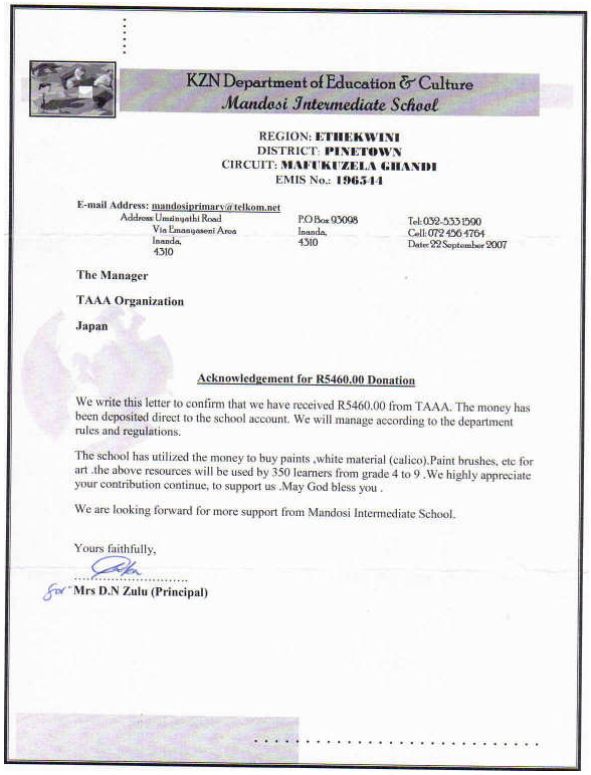
↑マンドシ小の生徒さんがムルンギシ基金で購入した画材を使って描いた絵の前に立つＴＡＡＡ南ア事務所代表の平林薫。
（絵の説明：平林のメールから）
READATHON をモチーフに本を読んでいる男性の明るい絵（右下）を描いたのはムルンギシ君の弟ンゾクトゥラ君です。

移動図書館車と図書室

TAAA の支援によって学校が明らかに変わってきたのは、イナンダ地区のマンドシ校である。同校は KZN 州教育省へ TAAA が寄贈した移動図書館車が巡回している 21 校のうちの１校で、校長や教師たちが大変熱心であることから、TAAA との直接のつながりも深まっていった。今年初めには TAAA メンバーの米山さんが勤務する学習院高等科からの寄附で本棚を購入し、学校図書室が開設された。図書館車の訪問に加えて校内でも読書活動ができるようになり、今では読むだけではなく、自分たちで文章を書く活動も行っている。今後、「ひろしま・祈りの石」財団の援助も得て、JICA の学校菜園を実施する 20 の学校に、本を配布し、順に図書コーナーや学校図書室の設置を行なっていく予定である。

ムルンギシ教育基金

昨年結核で亡くなった卒業生のムルンギシ君を哀悼して設立された“ムルンギシ教育基金”へ多くの支援者の方たちからいただいた寄附により、生徒 350 名分の画材（絵の具、筆、白地の布など）を購入することができた。



KZN Department of Education & Culture
Mandosi Intermediate School

REGION: **ETHEKWINI**
DISTRICT: **PINETOWN**
CIRCUIT: **MAFUKUZELA GHANDI**
EMIS No.: **196544**

E-mail Address: mandosiprimary@telkom.net
Address: Umuzyathi Road, Via Emanqaseni Area, Inanda, 4310
P.O Box 95098, Inanda, 4310
Tel: 032-533 1590
Cell: 072 456 4764
Date: 22 September 2007

The Manager
TAAA Organization
Japan

Acknowledgement for R5460.00 Donation

We write this letter to confirm that we have received R5460.00 from TAAA. The money has been deposited direct to the school account. We will manage according to the department rules and regulations.

The school has utilized the money to buy paints ,white material (calico).Paint brushes, etc for art .the above resources will be used by 350 learners from grade 4 to 9 .We highly appreciate your contribution continue, to support us .May God bless you .

We are looking forward for more support from Mandosi Intermediate School.

Yours faithfully,

for Mrs D.N Zulu (Principal)

マンドシ小は特に美術教育に力を入れていること、またムルンギシ君が大変絵が上手だったことから画材の購入を決定した。これまでにもマンドシ校の生徒たちにカードや絵を書いてもらったが、これからますます美術活動が活発になることだろう。今ではマンドシ校は地域でも評判の学校となり、遠くからもマンドシに通わせたい、という保護者がいるという。先生方の熱意と少しの支援が学校を大きく変えるという実例といえる。

ウムジニャティ小に移動図書館車が到着

←ズールー校長先生からのムルンギシ基金への感謝状
（ＴＡＡＡからいただいた 5460 ランド＝約 10 万円で
４年生から９年生の生徒に３５０の画材を買いました。）

JICA 委託事業概要（2007 年６月～2009 年３月）

南アの ELET（教育と環境の NGO）と TAAA の共同事業です。	
1. 対象国名	南アフリカ共和国
2. 事業名	南アフリカ共和国クワズールーナタール州・ンドウェドウェ地域の小学校における健康教育と菜園プロジェクト
3. 事業の背景と必要性	南アフリカでは年々経済格差が拡大している。クワズールーナタール州の 7 割以上の人口が住む地方の村では未だに電気や水道などのインフラが整備されておらず、産業のない地域のため失業率も 50%を越える。貧困層の増大への解決策として畑作りが考えられるが、歴史的、経済的などの理由から農業は活発に行われていない。前回の HIV/AIDS ピア教育プロジェクトから同地域の貧困と貧困が引き起こす様々な問題の悪循環について認識した。前回のプロジェクトでは学校内のみならず地域へのサポートや情報発信も行い、その中から学校菜園プロジェクトへの要請を受けた。
4. 事業の目的	子供たちが菜園作りの体験を通し基本的な農業の知識を取得し、その技術を活用していくこと、また、保健、衛生、栄養などの基本的な知識を取得することなどによって、地域の子供たちの生活環境と健康状態が改善されることを目的とする。学校菜園が生徒たちの家庭に広がり、地域の農業促進へと発展することで、地域の人々が貧困などの様々な問題の解決に向けて自助努力できるようになることを上位目標とする。
5. 対象地域	南アフリカ共和国・クワズールーナタール州・ンドウェドウェ地域
6. 受益者層 （ターゲットグループ）	対象校 20 校生徒ー約 7200 人、　　対象校 20 校教師ー約 60 人 対象地域ボランティアー約 300 人、地域住民ー約 12000 人
7. 活動及び 期待される成果	①対象校 20 校の教師が農業の基礎的な知識と技術、健康教育に関する知識を習得する。 ・教材の開発と配布/農具、種の購入/校長および教師への研修 ②対象校 20 校で学校菜園がスタートする ・教師は①の研修で学んだことを生徒や地域のボランティアに指導し、共に菜園の実習を開始する ・農業指導員が学校訪問をして技術指導 ・次シーズンの学校菜園分の種の確保 ・コミュニティーに種を配布し、家庭菜園作りの促進 ③対象校 20 校で給食の量と質が向上する ・学校菜園からの収穫物を給食で利用 ・給食の重要性と効果的な利用法の指導 ④対象校の生徒たちが健康と環境に関する正しい知識と理解を深める ・教師は生徒たちに①の研修で学んだ健康と環境に関する正しい知識と情報を与える ・アクションプロジェクト（トイレや学校内の清掃他）の開始
8. 実施期間	2007 年 6 月ー2009 年 3 月
9. 事業費概算額	1,000 万円　（予定）
10. 事業の実施体制	日本側:アジア・アフリカと共に歩む会（TAAA） 相手国側:Environment and Language Education Trust（ELET）

TAAA は学校菜園を促進する20校に、図書の配布、学級文庫と図書室の増設と読書指導を ELET と共同で実施します。

ダーバン訪問記

～移動図書館車で小学校訪問～

牧野久美子

（特活）アフリカ日本協議会理事
ジェトロ・アジア経済研究所研究員
TAAA 会員

この 8 月末に、TAAA が送った移動図書館車の活動をダーバンで見させていただく機会がありました。野田さんにご相談したのは実は 8 月に入ってからで、急なお願いにもかかわらず、訪問をアレンジしていただき、平林さん、野田さんには本当に感謝しています。

朝早く、平林さんが迎えに来てくださって、まずは移動図書館車の「基地」である ELITS（クワズールー＝ナタール州教育省の一部局）のオフィスへ向かいます。貸し出し用の本は、ふだんから車に積んであるのではなく、オフィス内の本棚にしまわれていて、その日の訪問先にあわせて積む本を選ぶのだそうです。移動図書館車の運営スタッフ（貸し出し業務担当のゼトゥさんと運転手のトコさん）、それに平林さんは、今日は Grade 5～7 の学校だから、こんな感じの本を、と手馴れた様子で、ダンボール箱にどんどん本を詰めていきます。本でぱんぱんに膨れたダンボール箱を車に乗せると、いよいよ出発です。20 分も走ると、ダーバンの都会の町並みは消え、いくつかのタウンシップを越えながらさらに北に向かうと、何重にも重なり合う丘が見えてきます。緑の丘の斜面や谷間に家々が点在する、この地域独特の光景が広がってきます。

今回、訪問したウムジニャティ小学校は、そんな丘の一つをのぼったところにありました。校庭に移動図書館車を停め、到着したことを先生に伝えると、車体側面の棚に本を並べきらないうちから、生徒たちが集まってきます。友だちどうし、おしゃべりしながら、本を選んでいき、これという 1 冊を決めると、一列に並んで、貸し出し窓口で手続きをします。これが各クラスごとに繰り返されるので、子どもたち全員に本が行き渡ったときには、すでにお昼になっていました（もっと規模の大きな学校では午後までかかるそうで、今日は早く終わったなあ、とスタッフの方たちが言っていました）。この学校の生徒たちは、日本でいうと小学校高学年から中学 1 年生くらいにあたりますが、薄くて、イラストの多い、絵

ウムジニャティ小の移動図書館車を訪ねる筆者（左）

本のようなものを選ぶ子どもたちが多いようです。1 回に借りるのは 1 冊だけで、次に移動図書館車が来るのが 3 ヶ月後と考えると、もう少し「本らしい本」のほうがいいのに、とつい思ってしまったのですが、考えてみると、彼らが借りているのは英語の本で、母語のズールー語の本ではありません。ズールー語の本を借りようとした子どもが、もう高学年なんだから英語にしなさい、と指導されているのを目にしましたが、「英語の勉強」ではなく「読書の楽しみを知る」ことが目的なら、高学年でズールー語の本でもいいのでは、という気もしました。

学校に図書室がなく、公立図書館が設置されている町から遠く離れた地域に住む子どもたちにとっては、教科書以外の本を手にする機会は、移動図書館車の巡回時にほぼ限られることと思います。この移動図書館車は、今回訪問した学校を含む、クワズールー＝ナタール州イナンダ地区の 21の学校を、1 学期に 1 回（年 4 回）のペースで巡回しているそうです。各学校に数百名の生徒がいるわけですから、1 台の移動図書館車で、数千人の子どもたちが、本に触れる貴重な機会を得ていることになります。巡回の頻度をもう少し増やせるとよいのではないかと思いましたが、1 台でカバーする学校数との折り合いということなのかもしれません。巡回の合間に利用できる、小さくても常設の図書室や図書コーナーが各学校に設けられれば理想的だと思います。蔵書を増やす手だてとしては、日本での現物の寄付に加えて、南アフリカ国内のチャリティ・ショップなどを利用してみてもよいのではないかと思いました。

TAAA 会員になって日が浅く、たった 1 日の移動図

書館車への同乗体験に基づいて書いておりますので、誤解している部分もあるかもしれませんが、どうぞご容赦ください。この日以外にも、平林さんには、TAAA の JICA プロジェクトのカウンターパートである ELET のマーヴィン代表をご紹介いただき、また、私のダーバン滞在中、毎日、晩ご飯にお招きいただき（シェフ顔負けのサンディーレさんのシチュー＆パップ、とってもおいしかったです！）、本当にお世話になりました。今後とも、TAAA の活動を微力ながら支援してまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ELET からのメッセージ

２００７年９月

ELET と TAAA との協力関係は１９９０年代初め頃に始まり、以来、年を追って強固なものとなってきています。両団体は、貧しく厳しい状況に置かれているコミュニティーへの教育および社会開発という共通の目的を分かち合っています。この共通のビジョンは、TAAA からの資力によって私共 ELET が行ってきた様々な活動に表されています。

ここで特に明記したいのは、我々の共通のビジョンへの一貫した、惜しみない支援を続けている２人の女性です。まず、２つの団体の協力体制を作り上げ、深めてくれた TAAA 代表の野田千香子さんに敬意を表したいと思います。もちろん、彼女と共に長年活動し、南アフリカの多くのプロジェクトへ本の寄贈など様々な支援を続けてくださっているたくさんのボランティアの方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

そして、ELET は南アフリカにおける平林薫さんの活動にも感謝したいと思います。彼女は ELET の活動への協力をする中で、すでに ELET ファミリーの一員となっています。

TAAA から寄贈される本と資金によって、ELET はダーバン周辺の学校への図書館プロジェクトを行ってきました。過去数年間で ELET は７名のファシリテーターを養成し、ワークショップに参加した教員に図書館活動の基礎を指導してきました。これまでに 100 名以上の教員がワークショップで学び、寄贈された本はそれぞれの学校において有効に利用されています。ELET は TAAA からの協力で今年もこの活動を続けていきたいと考えています。また、移動図書館車の到着と活動の開始も楽しみにしています。

現在 ELET は食糧保障のための“学校菜園プロジェクト”をンドウェドウェ地域の小学校 20 校で行っています。これは TAAA を通して JICA からの資金によって行われた“HIV/AIDS ピア教育プロジェクト”を継続、発展させたプロジェクトです。同じドナーからの資金により、前回のプロジェクトに参加した学校が多く含まれています。プロジェクトは順調に進んでおり、成功の兆しを見せ始めています。

ELET スタッフ一同、TAAA のメンバーの皆様のご健勝をお祈りし、今後、ますます両団体のつながりが深まっていくことを信じております。

ELET 代表
マーヴィン・オグル　　（訳：久我祐子）

学校菜園プロジェクトおよび図書プロジェクト実施校の生徒たちへの手紙（原文は英語）

南アフリカのお友達へ

こんにちは。私は久我祐子と申します。アジア・アフリカと共に歩む会(TAAA)のメンバーです。皆さんはこの会の名前を聞いたことがありますか。私たちは、あなたたちの学校菜園プロジェクトと学校図書プロジェクトを支援している日本の市民グループです。南アフリカに本や移動図書館車も送っています。私たちがどうしてこのような活動をしているのかご存じですか。私たちはあなたたちの友達で、あなたたちのことが大好きだからですよ。

平林薫さんが、タタクサ小学校でお皿を洗っている2人のチャーミングな女の子の写真を送ってくれました。本当に可愛いですね。日本で多くの人たちにステキな笑顔を見てもらいたいので、写真はインターネットで紹介しています。

野菜を育てることは素晴らしい仕事です。これは自然に感謝する一つの方法だと思います。育てたお返しに、野菜は私たちの体と頭を健康で、強く、頭脳明晰にしてくれます。みなさんがスーパー・アスリートや優秀な生徒になりたかったら、野菜を食べなさい。

しかし私は、学校菜園プロジェクトは、ただ野菜を育てて食べるだけのものだとは思っていません。水汲み、配膳、食器洗いなどの仕事もプロジェクトに含まれるのでは、と思います。これらも学ぶことの多い大切な仕事です。男の子も女の子もこういう仕事を一緒にやって欲しいと思います。将来のために、プロジェクトを最大限に活用してほしいのです。あなたたちが大人になった時、世の中の男女は、仕事と家庭の両面で今よりもっとステキなパートナーシップを築いているはずです。

日本の小学校では、男の子と女の子は一緒に色々な仕事をします。給食係、机、椅子、床、トイレの掃除、小動物の世話、花壇の水まきなど。男の子も女の子も、勉強と同様にこのような活動から多くのことが学べると思います。

有望な将来のために、一生懸命勉強して沢山本を読んでください。皆で協力して菜園プロジェクトを楽しくやってください。そして、太陽、水、労働、友情でできあがった「実り」をたっぷりお腹に入れてください。

久我祐子　TAAA

（英語で書かれた手紙に写真も3枚つけて、学校菜園プロジェクトを実施している 20 の各校に掲示されています）

学校菜園プロジェクトの農業技術指導者ンコシさんからの手紙

TAAA のみなさま

ンコシ・ソケラ２５歳です。ＥＬＥＴで農業技術者として働いています。農業専門学校を修了し、現在は学士課程で農業理学を勉強中です。地域社会での農業開発に携わる事、とりわけンドウェドウェで学校菜園プロジェクトの担当として働いている事をとてもうれしく思っています。教師も生徒も学校菜園を成功させようと本当に一生懸命です。それは作物を育てる今の喜びに加え、知識や経験が根付く事になるわけですから。TAAA や JICA の皆様には我々にこのようなプロジェクトの機会を与えて下さった事を感謝しています。

いくつか日本語の単語も知ってますよ。
「ＡＲＩＧＡＴＯ！」
このプロジェクトがうまくいくように今後もベストをつくして努力し続けます。

ンコシ・ソケラ　（訳：佐々木香世子）

～河合塾の貢献活動～

TAAA と一緒に梱包作業をする久保さん（中央）

河合塾の社会貢献活動の一環として続けている英語書籍寄贈ボランティアも今年で5回目となります。今年は、29 の高校、31 の河合塾の校舎・部門から書籍が集まり、合計 73 箱以上の書籍を集めることができました。

今年は野田さんが、高校生・受験生対象に「国際ボランティア活動に関わって」（河合塾大宮校で実施）という内容で、講演してくださいました。講演を聴いた生徒からは、「国際ボランティア活動が行われていることは知っていたが具体的なことはよく知らなかった。南アフリカの状況や子供たちに対して、何ができるかを分かった気がする」「ボランティアを身近に感じることができた。自分も何かできるのではないかと思った」「自分一人でも何かできることを実行することが大切だと思った」というコメントが寄せられました。興味や関心はあるけどよく知らなかったことについて具体的なイメージができ、また行動することの大切さを実感したようです。また、講演を聴いた生徒が友達と一緒にボランティア活動に参加してくれました。

一緒に梱包作業を行った生徒は、「全国から寄贈された英文の絵本や教科書が部屋いっぱいに積まれているのを見たときは、とても驚きました。梱包作業では箱に隙間なく本を詰めるのが難しかったです。お昼には、実際に南アフリカでボランティア活動をなさっている方々のお話も伺うことができて、国際ボランティアに対する関心が高まりました」「今回、このボランティアに参加して、世界にはまだまだ格差があるんだなと改めて実感しました。一刻も早くあの本たちがアフリカの子供たちの所へ届くことを願っています」という感想を寄せてくれました。

生徒たちにもよい経験・きっかけを提供できたと思います。今回送った書籍が子供たちの一助となれば幸いです。

学校法人　河合塾　教育研究部　　**久保智子**

河合塾から作業に参加した生徒さん

第 6 回　TAAAと私

（1995年）

野 田 千 香 子

（写真：右がマニエル大臣）

関税免除の問題

埼玉県の市や町で使われていた移動図書館車が廃車された後、再整備して、南アフリカ共和国に送り出せる可能性が出てきた。しかし、一番のハードルは、南アに入る際に200%の関税がかかる問題を解決することであった。関税を払ったのでは、中古の移動図書館車を送る意味がない。移動図書館車が南アの教育に大きな貢献を果たすだろうことは、南アのNGOや駐日南ア大使館をはじめ関係者の誰もが認めるところであった。

問い合わせに対して、南ア大使から「輸入関税の免除特例措置の決裁権を持つのは、南ア貿易産業大臣ただ一人である。たまたま日本で開催される経済会議に大臣が来日するので、その折に面会できるよう、取り計らいましょう」という知らせをもらった。

南ア貿易産業大臣に面会する

大臣の来日中の予定は詰まっていたので、公邸での政財界の夜のパーティーで面会することになった。薄暗い夜の公邸の庭園には、主賓であるマニエル貿易産業大臣を囲んで政財界のかたがたが取り巻き、なかなか近づけない。思い切って割り込み、前面に出て、必死でお願いした。「日本ではまだ使用可能な数万キロしか走行距離がないような移動図書館車が廃車になること。それらを本の不足している南アに送りたい。ついては輸入関税を免除していただきたいこと・・。」大臣は長身をかがめて、パーティーの騒音の中で、私の下手な英語を熱心に聞き取り、「すばらしいことですね。承知しました」と言って下さった。大枠は大使から事前に伝えられてあったようだった。

これでひとつの大きなハードルは越えられたが、この後に南部アフリカ関税同盟というものがあり、近隣数カ国の同意を得なければならないことも判明した。実際に車を（株）商船三井の援助で送り出せるまでの半年以上、煩雑で面倒な手続きや催促や連絡などを引き受けてくださったのは、当時の毎日新聞ヨハネスブルグ支局長の福井聡さんであった。

最初の 2 台を送付

1995 年 4 月、中古の移動図書館車は無事に南アフリカのふたつのNGOに向けて出港した。MEIに送った車は 10 年以上たつ今も最高の状態で40 以上の学校を巡回している。小型でより古い車は数年間、山間部に本を配布し読書指導を行なうELETの活動で使われたのち、ハウテン州に移譲され、今は引退して学校の一隅で図書室として使われている。MEIの車は日本で使用されていた年月と合算すると 20 数年になる。ジョハネスブルグにも近いのとシステムもしっかりできているので、多くの人たちが今も見学に訪れている。　　（つづく）

◆　主な活動（2007年6月16日～2007年9月15日）　*下線は南アにおける活動*

5/15 ＥＬＥＴにて会議　　平林薫

5/19 アフリカン・フェスタ出展　日比谷公園
浅見克則　西村裕子　野田千香子　佐々木香世子
中野敦子

5/20 アフリカン・フェスタ　浅見　丸岡晶　野田
佐々木　下谷房道　武山理絵　山下八千穂
近藤信幸

5/24 河合塾エンリッチ講座準備　　野田

5/25 イーココロよりTAAAを訪問　　武山　野田

5/24 南ア移動図書館報告の表作成　西村

5/30～6/3 会報44号編集・校正　　野田　西村

6/2 算数セットを川口の西本さんと武田さんから受け取る　　常見佳代

6/2 NHK第1放送地球丸ごと情報出演（南アにて取材受ける）　　平林薫

6/7 南アプレトリアＪＩＣＡ事務所の小野所長、根本氏とＥＬＥＴにてミーティング、プロジェクト調印式後、ンドウェドウェを視察　　平林

6/9 本を受け取りに行く　　浅見

6/9 工場より八尾市車を駐車場へ運ぶ　　浅見

6/10 会報44号封筒準備　　大久保ふみ

6/10 会報発送作業　　西村　丸岡　野田

6/12 会報44号をHPに掲載　　近藤

6/13 7月7日の報告会webへリリース　　丸岡

6/14 JICAにて会議　　野田　　浅見　　久我祐子

6/15 JICA委託事業「学校菜園促進プロジェクト」開始　　南ア・ＫＺＮ州にて

6/17 アフリカ日本協議会総会　　野田

6/18 河合塾にて打ち合わせ会議（エンリッチ講座について）　　野田

6/24 ホームページ更新　　武山

6/24 作業と会議　　野田　西村　下谷　浅見
佐々木香世子　佐々木香帆　武山　浦和学院高校２年生の生徒さん６人

6/25　ＥＬＥＴにてミーティング　　平林

6/26 中地明子さんとミーティング　　平林

6/28 日本へ出発　　平林

7/2 河合塾大宮校にて「南ア活動」講演　　野田

7/5 ＮＧＯ相談会へ運営の相談にいく　　野田

7/7 TAAA活動報告会　埼玉県労働会館
懇親会

7/9 JICAにて会議　　平林　野田　久我

7/10 アフリカ日本協議会事務局訪問　　事務局長と面談　　平林　野田

7/16 会議　　西村　平林　野田　久我　浅見

7/19 JICAにて会議　　平林

7/19 河合塾呼びかけの本６７箱受け取る　野田

7/23 大宮にて本を受け取る　　野田

7/23 南アのダーバンに戻る　　平林

7/25 ＪＩＣＡ学校菜園事業校長研修開催　　平林

8/1 平林さんへ送金

8/1 ンドウェドウェ学校訪問　　平林

8/2 税務署へ収益免税届け　　野田

8/4 「南部アフリカを支える会」報告会（木村香子さんの講演）へ　　野田

8/8 免税届けの提出物を税務署へ　　野田

8/8 ンドウェドウェ学校訪問　　平林

8/12 作業と会議　　野田　浅見　下谷　西村
関根章博　米山周作　河合塾より久保智子さん
塾生の時田さん、丸山さんが参加
ＮＰＯシェアより青木美由紀さん　南部アフリカを支える会より木村香子さんが参加

8/10 三つ折パンフ更新　印刷へ　　野田

8/15 ンドウェドウェ学校訪問　　平林

8/17 移動図書館車でマンドシ小学校訪問　　平林

8/23 南ア大使館主催「女性の日」講演会とパーティー
野田　　久我

8/24 移動図書館車プロジェクト訪問　　平林

8/27 ンドウェドウェ学校訪問
ＥＬＥＴにてオグル代表、牧野久美子さんとミーティング　　平林

8/28 本の集計表作成　　関根

8/28 南アの２０の学校への手紙作成　　久我

8/28 牧野さんと移動図書館訪問　　平林

9/3～5 ンドウェドウェ学校訪問　　平林

9/4 本を倉庫へ運ぶ　　北爪健一

9/7 (株)フェリシモより英語の本400冊届く

9/9 保管中の車のエンジン点検　　浅見

9/10～12 ンドウェドウェ学校訪問　　平林

ルイボスティのご紹介

南アフリカの西ケープ州だけに取れる健康茶ルイボスティをご購入いただきますと、売上の一部がTAAAに寄付されます。ノンカフェインですので、赤ちゃんから、高齢の方まで、召し上がっていただけます。

1箱　80パック　　2000円(送料一律500円)
(5箱以上　送料無料)

1パックでヤカン一杯のお茶が飲めます。

お申込みは、P12　のTAAA連絡先へ